



「自らの安全は、自らが守る」これが、防災の基本です。

自宅を安全な空間にすることも、自分にしかできないことです。地震の揺れの中では、誰もが、自分の身を守ることはできません。



揺れがおさまったとき、自分の目の前にある火災を、最も早く消すことができるのは自分です。けがをした家族の出血を、最も早く止血できるのは自分です。こうした、自分の手で自分・家族・財産を助ける、備えと行動を、自助と呼びます。



自助



「わがまちは、わが手で守る」これが、地域を守る、最も効果的な方法です。

そして、地域を守ることは、自分を守ることです。

自分が生き埋めになったとき、それに気付き、救出活動を始めてくれるのは誰でしょう？ 震災のような広域災害では、地域の防災機関(警察や消防など)も、同時にすべての現場に向かうことはできません。かと言って、自衛隊など被災地の外からの応援の到着には時間がかかります。近隣のみなさんが救出してくれるのを待つほかありません。救出活動も消火活動も、早く始めるほど、そして、多くの人に参加するほど、被害を小さく抑えられます。災害時に円滑に協力するためには、ふだんからの交流が大きな力になります。こうした、近隣のみなさんと協力して、地域を守る、備えと行動を、共助と呼びます。



共助



市を始め、警察・消防・県・国といった行政機関、ライフライン各社を始めとする公共企業、こうした機関の応急対策活動を、公助と呼びます。



公助